



コミュニティだより



発行 登米市吉田公民館 TEL：0220-55-2124
 (指定管理者 吉田コミュニティ運営協議会) FAX：0220-55-4528

吉田コミュニティ運営協議会



桜岡どんと祭が開催されました

毎年恒例の桜岡どんと祭が1月14日に桜岡長源寺脇の桜岡公園で開催されました。主催は桜岡商工振興会の皆様で、消防団の皆様が警戒活動を、交通指導隊の皆様が誘導等を行うなど、地域をあげたお正月行事でした。当日は午前中からお正月飾りや古いお札を持った方々が来場し、午後4時に花火を合図に点火されて火柱が大きく立ち上がり、終了時刻の午後7時まで赤々と燃え続けました。トータルで約1,000人が来られたそうです。桜岡どんと祭は、お正月飾りを自宅で焚いて火事になることがあったので、地域住民の皆様を思って平成の始めに当時の商工会青年部が中心となって始めた行事で、以来30有余年続いている地域コミュニティの最たる形の行事です。ありがたいものです。



第25回 吉田地区新春交歓会 開催【1月15日(日)】

公民館事業・コミュニティ事業にご協力いただいている皆様とコミュニティ運営協議会の役員とが一堂に介した吉田地区新春交歓会を例年より規模を縮小し、コロナ対策を十分に施して3年ぶりに開催しました。久方ぶりの会合だけに皆さん笑顔で集まっていただきました。会の冒頭に50年前の宮城県制100年記念の記録映像で学習会を行い、記念写真を撮影し、会長挨拶、来賓の皆様から祝辞をいただき、参加者同士懇親を深めて大いに盛り上がりました。参加者からも「3年ぶりに新春交歓会ができて良かった。これからも地域や人との繋がりを大切にしてもらいたい。」と言った声をいただきました。コロナに負けず、これからも様々な工夫をして事業を継続してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



吉田室内グラウンドゴルフ大会 予選会第2回 開催【1月18日(水)】

冬期間の高齢者の健康増進を目的とした「としよりの居場所づくり事業」で行っている体育館での室内グラウンドゴルフの日頃の練習の成果を発揮してもらうために今年度2回目の予選大会を開催しました。3月に登米蔵シウムで開催するグランドチャンピオン大会の出場権をかけて、22名が参加して熱戦が繰り広げられました。今大会の優勝は永沢行政区の日野ふみ子さんでした。おめでとうございます。2月8日にも予選大会を開きますので皆様の参加をお待ちしております。まだまだ寒い日が続きます。家の中にばかりいないで、平日の午前中は体育館でウォーキングを兼ねてグラウンドゴルフに興じてはいかがでしょうか。上靴だけ持参ください。



裏面もご覧ください →

健康スポーツ教室【12月8日（木）、15日（木）】



これまでストレッチング・筋力トレーニングをメインに行っていましたが、音楽に合わせてリズム体操を追加。右手と思ったら左手を出して、自分で大笑い。それに釣られて、みんなで大笑い。いつも楽しい教室です。

ホームメイドクッキング【12月20日（火）】

新型コロナウイルス感染症対策を十二分に行い、3年ぶりに料理実習を行いました。年齢を重ねる上で大切なタンパク質や水分の取り方を学び、簡単に手に入る材料で調理。学級生からは、「久しぶりの教室に満足をした」と声飛び交えました。

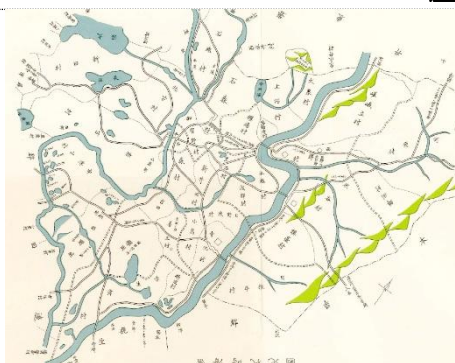


吉田女性サークル【12月28日（水）】

12月28日 新春を綺麗な花で迎えましょう！！毎年好評な「お正月用アレンジメント」今年も御用納めの28日に開催。同じ花材でも、生け方によって違った表情を見せてくれます。きれいな花で新しい年を迎え、輝かしい年になったことでしょう！！



歴史講座温故知新【1月19日（木）】



今年度第5回目の学習会を1月19日に受講生20名を集めて開催しました。講師に元米岡小学校長、善王寺小学校教頭を務められた舟嶋茂昭氏をお迎えして「北上川あれこれ」と題して講演いただきました。北上川の歴史のみならず、ご自身が活動している船下り事業や川の中の構造物、棲息する魚類や鳥類など多岐にわたるお話してあつという間の1時間半でした。お陰で写真を撮るのを忘れてしまいました。またお呼びしたい先生でした。

←（江戸時代末の絵図）

館長の戯言（ざれごと）No. 15 「きゃーな・けあーな」（参考図書：方言に生きる古語）

大相撲初場所は貴景勝が12勝3敗の成績で優勝しましたが、後半戦は盛り上がった取り組みが多かったです。今回はその相撲の世界と方言にしか残っていない古語「かいな」を取り上げます。「かいな」とは腕のことで古事記や万葉集の時代から使われている由緒ある言葉ですが、次第に「うで」に取って代わられてしまいました。相撲用語として「かいなひねり」や「かいなを返す」などと使われています。方言としては「かいな」が「きゃーな・けあーな・きゃな」などと変化して当地に伝わっています。当地では腕全体をさす意味で使っていますが、二の腕は「かいな」、ひじから手首までを「うで」と使い分けている地方もあるそうです。